

撮影協力：デイサービスみあさの皆さん

みあさづくり



ご長寿おめでとうございます。

毎年9月に開催していましたが、昨年引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し開催を自粛することとしました。

今年は、敬老の日に合わせて美麻地区で収穫した花豆を使った甘納豆などを記念品として、75歳以上の皆様に記念品をお贈りしました。

花豆のパッケージには、鈴木ころさん（二重在住の高校生）が書いた縁起の良い鶴と亀のイラストを、化粧箱の熨斗紙には美麻小中学校1～6年生の児童からのメッセージ入り塗り絵を添えました。また、賀寿（77歳、88歳、99歳）の皆様へは、みあさ保育園児からかわいい折り紙が貼られた「ご長寿お守り」



を記念品に添えてお渡ししました。

一日も早く平穏な生活に戻り、来年こそは盛大に敬老会が開催できるよう願っております。

ご長寿おめでとうございます。

（美麻地区敬老会実行委員会）

QRコードを読んでパソコンやスマホでもご覧ください。

ホームページ
美麻Wiki



facebook



地域の話題

「うんとこしょ、どっこいしょ」(10月12日)

公民館の方と一緒に宮沢雄一さんのさつまいも畑へ行ってきました。

前日からてるてる坊主を飾り、おもしろを楽しみにしていた子ども達。車の中では、やきいもグーチャーパーの手遊びをしながら期待に胸を膨らませていました。

畑に到着し、いざ掘り起こそうとツルを引っ張るとなかなか抜けず苦戦……。大人の助けもあり、なんとか引っこ抜くことができました。さつまいもが出てきた時にはとても嬉しそうな表情を浮かべていました。

自分で掘ったさつまいもには愛着が湧いたようで「にんじんみたい」「私のはこんなに大きいよ」などと友達と見せ合い、比べっこをしていました。今から、やきいも会が楽しみです。



帰りに、さつまいものつるをいただいたので、リースを作りました。「先生できないよ～」と言う子もいましたが、がんばって丸くしていました。ありがとうございました。(保育園 中村優衣菜)

遠足、楽しかったよ～♪



西公園へ遠足に行きました。9月29日の朝は霧雨で心配でしたが、日中は夏のように暑くなり、とてもいい遠足日よりでした。

大きなバスは見晴らしがよく、「いっしょに乗ろう♡」と声をかけあって乗っていました。公園に着いたらおやつタイム！くじ引きでおせんべいを食べました。公園では気の合う子といろいろな遊具に挑戦したり、みんなでひとつの遊具に集まって遊んだり、真っ赤な顔をして西公園を満喫して、お昼にはお弁当を食べました。「〇〇入ってるよ～。」「わあ、おいしそう♡」とみんな笑顔で食べていました。

午後は大町図書館に行き、読み聞かせをしてもらいました。大型絵本や言葉のかけあいのある楽しい紙芝居を楽しみました。

「かまど神社」へも参拝をして、たこさん遊具前の橋の上で記念撮影をし、帰ってきました。馴染みのある公園ですが、お友だちと行くと楽しかったようです。(園長 北村幸)

梨嶺訪問(9月14日)

梨嶺のおじいちゃん、おばあちゃんに元気を届けに行ってきました。コロナ禍なので裏の庭から歌と踊りを見てもらうつもりでしたが、快く中に入れてもらい、さらにステージに登らせてもらい、緊張していた子どもたちです。

自己紹介をして、「とんぼのめがね」と「手をたたきましょう」「まつぼっくり」を元気に歌いました。かわいい「き・き・きのこ」の踊りも披露しました。「じょうずだね!」「かわいいね♡」と言ってもらったり、拍手をもらったりして子

もたちも見てくれる方がいると、はりあいがありとても嬉しそうでした。お互い、コロナウイルスに負けないように元気に過ごせるといいです。

(園長 北村幸)



美麻地区文化祭を開催（10月24日）

令和3年度 美麻地区文化祭に寄せて

抜けるような晴天の下、源流美麻太鼓のオープニング演奏に続き、美麻地区の文化祭が開催されました。

本年も新型コロナウイルス感染症拡大防止の面からステージ発表はありませんが、保育園、小中学校、地域の皆さんの力作を拝見できました。

実りの秋、収穫の秋と言われるように、今年一年間、一人ひとりが趣味や好きな作品作りの発表の場として、また学業の成長の記録としてこの「文化祭」を目標に励んで来たと思います。地域の皆さんや行政の活動など日頃お世話になっているにも関わらずあまり意識していないことも、改めて知ることができるし、私は母がサービスにお世話になっていることもあり、手芸やお料理をスタッフの皆さんにご指導頂いている活動の写真を見ることができ感謝です。

作品を拝見しながら私の好奇心もくすぐられますし、学ぶことも多いと感じます。

「終生学習継続は力なり」「我以外皆師なり」
（美麻地区文化祭副実行委員長 田中政広）



食べて応援「GIBIER DE MIASA（美麻のジビエ）」

美麻地域づくり会議ではジビエ（鹿肉）の消費拡大を通じて、美麻地区の有害鳥獣対策を応援するために、「GIBIER DE MIASA（美麻のジビエ）」をPRするのぼり旗を作成して市内でジビエ料理を提供している飲食店や鹿肉を販売しているお店に掲出していただくキャンペーンを始めました。

鹿肉は高タンパク、低カロリーで健康食材として注目をされていますのでご家庭でも是非ご賞味下さい。

キャンペーンに参加いただけるお店がありましたら、事務局までご連絡、ご紹介をお願いします。

- ジビエ料理の食べられるお店
「ほかほかランド美麻」「花まめや」「しすかの里」「農園カフェラビット」「カイザー（俵町）」
- 鹿肉販売店
「手打ちそば美郷」「花まめや」「地場の郷（常盤）」（10月24日時点）



コミュニティ・スクールの話題

初めての音楽発表会



1年生にとっては初めての梨の木祭です。

音楽発表会は10月2日に行い歌を2曲と鍵盤ハーモニカの演奏を3曲やりました。歌では、1年生の

元気の良さが発揮できるように、軽快なリズムに合わせて動きながら歌ってみました。教室では元気いっぱいな子ども達も、ステージに上るとその広さに戸惑ったり、動きに気がとられて声が出なかったり、思いもしなかった小さな壁がたくさんありました。また、国旗を振りながらの歌の振り付けは子供たちと決めました。子ども達はやる気満々で、いろいろな意見をたくさん出してくれました。その他、子ども達が気付いたことを次の練習のゴールにして、練習を繰り返しました。練習を重ねるたびに、子ども達の気づきが高まっていくことを感じました。対話によってより良いものを目指していく姿が、1年生にも芽生えてきていることを感じました。(文責 1年担任 松澤 享)

「ドキドキわくわく 乗り物遠足！」10月13日(水)

1・2年生で乗り物遠足に出かけました目的地は「国営アルプスあづみの公園」です。おやつのお買い物を切符を買って電車に乗り、お勉強をしながら遠足を楽しみました。この日初めて電車に乗るお友だちもいてドキドキワクワクでいっぱいの日でした。子どもたちは、事前学習にも一生懸命取り組みました。2年生は遠足のリーダーとして、当日の計画を立て、1年生にプレゼンテーションを行いました。班のお友だちに寄り添い、優しく声をかける姿が素敵でした。1年生も、楽しい遠足するために話し合いの中でたくさん意見を出しました。1年生と2年生で力を合わせて、仲よく楽しい遠足になりました。

(文責：2年担任 西澤沙織)



- ・ワンマン(電車)のけしきが、すごくきれいでした。(1年 柏原巧さん)
- ・雨で外では遊べなかったけど、中で楽しく遊べてよかったです。(2年 青山海音さん)

材料は自然のものだけ！小屋づくりプロジェクト進行中！



3年生は総合の時間を使って、枝や木の皮、土など自然のものだけを利用しての小屋づくりをしています。

「昨年度のひみつきち作りよりももっとすごい

小屋を作りたい。でも自然や野生動物も大事にしたい。だから土に還るものだけで小屋を作ろう！」そんな思いからスタートしたこの活動は、山仕事創造舎の渡辺さんをはじめ、地域の方々にも協力してもらいながら進めています。先日は7月に伐採した「こうぞ」の木の柱を、倒れないように建てるためにはどうしたらよいかアイデアを出し合い「穴の中に砂利をいれて柱を固定する方法」を試したところ、見事12本の柱をしっかりと建てることができました。次の課題は「土壁をどのように作ればいいのか」です。ご協力をいただける方大歓迎です！毎週金曜日の5・6時間目に美麻小中学校東側にあるゆるキャラの森で活動をしています。

(文責：3年担任 藤巻智哉)

コミュニティ・スクールの話題

木が倒れた時、振動がすごかった！

お山の学校の時間（9月21日）4年生が講師にスクールパートナーズの渡辺寛さん、阿部克也さん、北沢和也さんをお願いしてアカマツの伐採を体験しました。

始めに「受け口」「追い口」を教わり、木を倒すためにロープを引っ張るチームとのかぎりで切るチームに分かれて作業しました。全員がのかぎりを体験できるように途中で交代しながら作業を行い

木が倒れると一斉に駆け寄っていきました。切り口の匂いをかぐといいにおいがまして、おがくずを集めて袋に入れ「匂い袋を作る」と笑顔で言っていました。年輪を数えてみると35本あり、年齢が分かりました。年輪には間隔が広いところはたくさん

日の光が当たった証拠だと教わりました。年輪で多くのことがわかると知りました。

終わりの会で「木が倒れた時、振動がすごかった」と感想がでました。めったにできないよい体験をさせていただきました。

（文責 4年担任 野本和幸）



『作ろう 学ぼう 遊ぼう もっといかそう美麻の自然』

「ザ・木で遊ぶ！」グループは、森をきれいに、楽しい場所にしたいという思い

で、まずは古い木や葉っぱを取り除く道の整備から始め、地域の方々のかも借りながら、滑り台・ターザンロープ・綱渡り・ブランコを設置してきました。

「美麻メイキング」グループは、美麻でできることをたくさんの人に知ってもらいたいという思いで、ペランダ菜園で野菜やお米を育てたり、美麻にはどんな川や魚があるか学び、実際に釣りに行ったり、美麻の材木を使ってはし・スプーン・食器作りをしたりしました。

自然の木でも楽しい遊具ができること、自然のもので作るのには知恵や工夫がいる事を学び森で経験することができました。木工ではスプーンやはしを彫るのが難しかったことや、魚釣りは静かに待つことの大変さ、魚をさばくことの勇気を知りました。自然のよさ、美麻のよさを体いっぱいを感じる活動ができています。

（6年担任 太田さや香）



.....
 コミュニティ・スクールの話題

星空に輝く 第34回梨の木祭（9年生）

テーマ「星空 ～全員集合 ほくらの光」このテーマの通り、美麻小中の95人の光が一つに集まって、「第34回梨の木祭」が10月1・2日に開催され、まばゆい輝きを放った2日間でした。

『0からやった企画だったので、間に合うか心配だったけど、ハプニングがあった中、対応することができ8、9年生で作りがけることができました。』

『理想をどう現実にするかを学べました。』『発表が、

1人1人全力投函（自治会スローガン）でやれていた。』『本番って練習より短いんですね』<ジャンプ期生徒の感想>

一生懸命ドラゴンボールに扮して行った劇。ホップ期のみなさんに、「もう、会えないの?」と言ってもらえた喜び同時に押し寄せる寂しさ・・・

9年生にとっては最後の梨の木祭。幸せを感じられた時間に感謝したいと思います。（9年担任 平林隆昭）



梨の木祭！大成功！！楽しかったですね！（7年生）

梨の木祭を終わって感じたこと

大縄跳びで、目標回数をギリギリこせなかったことが悔しい。最初は全然合わなかったけれど、最終的にはリズムよく合わせる事ができた。合奏は思ったより上手に演奏できた。8、9年生の姿を見て、参考にして動きたい。

みんなが梨の木祭成功させるという気持ちで自分のやることを正確にやった。誰かに言われたら、次のやることも予測して動くようになった。

大縄跳びは声掛けを意識して、回す人、飛ぶ人にアドバイスしたりして、団結できた、間違えても声かけあった。みんなが団結しながら、一生懸命に動いていた。笑顔を絶やさず最後まで一致団結して楽しむ事ができた。これからは周りをよく見て自分が出来る事は言われる前にぱっと動けるようにしたい。

協力すること、気づかいをしながら素早くテキパキ行動したいと思った。アドリブで動くことが大切だと思った。臨機応変に対応して恥ずかしがらずにやりたい。気づかいをしながら場をつないでいて、沈黙がないように気をつけたいと思った。なんでも頑張ってる！！

（7年担当 小山保男）



大縄跳び 一番うまくいったんじゃないかな？

藤の棚田「稲刈り」 (会員活動の紹介)



アルプスがきれいに見える、9月20日(月)いよいよ今日は稲刈りの日です。

お手伝いの人数がつかみきれず、前日に一枚の田んぼを近くの会員さんとバインダーの調子を見ながら刈取をしました。そんな心配をよそに当日は、山村留学のOBなど10人の応援の方が集まってくれました。作業が始まると、バインダーだけに任せておけないと手狩りをする人も多くいました。お楽しみの昼食は我が家の手作り弁当です、もちろんお米は「棚田米」参加された皆さんにも好評です。

今日は棚田がにぎやかに輝いた日でした。できれば多くの方に見て欲しい光景でした。稲刈りも天候に恵

まれ午後4時には終了をすることができました、協力をいただいたみなさんありがとうございました。今年が夫が亡くなり司令塔を失い少しくまいかない場面もありましたが何とか無事に稲刈りまでこぎつけました。全国の棚田に比べれば小さな規模ですが維持は大変です。是非みなさんの知恵とご協力をお願いします。

(わかたの棚田再生(保存)会 伊藤敏子)

「北アルプス国際芸術祭」開催中

美麻地区では二人のアーティストによる作品が制作されていて、美麻地区では10名を超える皆さんからボランティアとして運営に協力をいただいています。

- ボランティアに参加して -

「平日のボランティアでしたが、思っていた以上に各地より鑑賞にお越しただいて驚きました。開催期間はまだまだありますので、美麻地区の方もぜひご覧ください。」(ボランティア 飯沢要)

- ㊸ 衝突(あるいは裂け目) 作家 持田 敦子
会場: 湯の海/旧教員住宅
- ㊹ いのちの記憶 作家 青島左門
会場: 元の関/二重ゲートボール場

連載 美麻の口碑伝説 九

大町民話の集大成(1)～(9)の心

狼の恩返し

(今回は、新行の話)

千見地区の番所の下條家では代々、毎年正月には松本城の藩主にあいさつに行った。その松本へ行くときは、朝早く家を出て、帰りはいつも夜遅かった。

ある年主人が、松本から帰る途中、大町と新行との間にある「おんな原」という場所にさしかかった時のことである。一匹の狼が後ろで立ち上がり、大きな口を開けて、さも痛そうに前足で口の中をかきむしるようなしぐさをした。

初めはびっくりして、狼に襲われ食い殺されるのではないかとさえ思った。しかし、狼は襲いかかってくる様子もなく、何か訴えるように、前足で口の中を見てくれというようなしぐさを繰り返すのであった。そこで、主人は、何か喉にでも刺して痛がっているのだなと察し、近づいて口の中をのぞいてみると、思ったとおり、太い骨が刺さっていた。さっそく人間にものを言うように優しく語りかけながら、その骨を抜き取ってやった。狼は何度も何度もお礼するよううに頭を下げ、うれしそうに山中へ姿を消した。

その後、この主人が夜遅くにこの原を通るときは、決まって一匹の狼が出てきて送ってくれた。あの晩主人が、「もうこれからは、送ってくれなくてもいいよ。」と言って帰した。それきり狼は出てこなくなった。

狼でさえ、一度受けた恩は忘れないものだ、あと後までも語り継がれたということである。
(美麻村誌・北安曇郡郷土誌稿より)



絵 あづみの児童文学会;編
「大町の民話」より

「おんな原」・・・中山から、北アルプス舞祭センターの裏を通り大黒町の共有林へ出ていく道がある。その途中と思われる。

ワーキングホリデー事業の受入れ始まる（美麻支所）



今年度、美麻支所では、新規事業として、総務省の「ふるさとワーキングホリデー」に取り組んでいます。この事業は過疎対策事業として、令和2年11月に策定した「美麻地区振興計画」に基づき、都市住民に就業・ボランティア・生活体験等の提供を通じた交流人口の増加を目的とする事業です。

大町市では、「むらの暮らしコース」のほかに、まちづくり交流課で担当している「ちょっぴり田舎コース」の2コースで取り組んでおります。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、受入れを見送っておりましたが、緊急事態宣言が全国一斉に解除されたのを機に、10月11日から15日まで5日間の日程で、群馬県から申し込まれた船岡英里さんをはじめ受入れすることができました。

船岡さんは、美麻地区内に滞在し、地区内のカフェや農業の仕事、そして、コミュニティスクールの取り組みなどを体験いただきました。

今回、急な受入れにも関わらず、美麻地域づくり会議をはじめ、地域内の事業主の皆さんや農家さんなど大勢の皆さんからご協力いただき、快く引き受けていただきました皆様にご協力をお願いいたします。

これからも、この事業を通じ美麻の魅力を発信し、交流人口・関係人口を増やしていきたいと考えておりますので、地域の皆様のご協力をお願いいたします。



つなぐれ地域のお店 ⑩ - ひと粒舎 -

手作りの喜び 「自給自足」の拠点を目指して

大町市中心市街地で7年半、フェアトレード・エコ雑貨店「グリナーズビレッジ」を営みました。もっと地に足をつけた活動をするために拠点を大塩に移し、屋号を「ひと粒舎」に変更し、活動を再開しました。

古民家改修後の初年度は農家民宿、農業体験イベントを行いました。コロナ感染拡大にともない休止し、現在山村留学生を4名受け入れています。

何か山に貢献する事業がしたいと考え、地元の間伐材を使い、学習机を親子でつくるワークショップを始め3年目になります。木こり講座やキット製作を大塩の林業家と木工作家をお願いし、地域で取り組む企画となっています。

5年ほど活動することで、自給自足のノウハウが徐々に蓄積されてきました。来年度に向けて地域の耕作放棄地を利用して古代小麦の栽培を現在計画しています。持続可能な社会、自給自足・手作りの喜びが広められる拠点を目指してこれからも進めていきます。（ひと粒舎 代表 八木聡）



■ 編集・発行 美麻地域づくり会議

住所 大町市美麻11810-イ 電話29-2311 FAX29-2333 ・ 電子メール info@miasa.info